

# 長崎県出身若手 3 選手

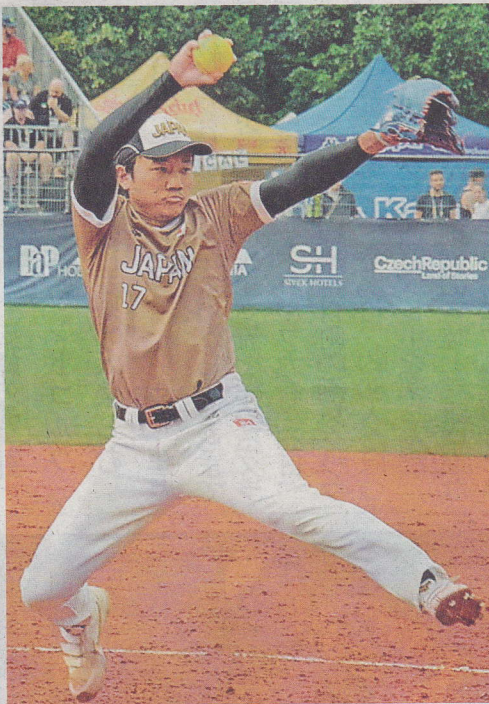
## 銀メダル獲得に大いに貢献

世界男子ソフトボール選手権

# 日本 19年ぶり「銀」



【準決勝、ニュージーランドー日本】  
5回に勝ち越し適時打を放って喜ぶ  
日本の大石



【準決勝、ニュージーランドー日本】  
1失点で完投した日本の小山＝プラハ  
(日本ソフトボール協会提供)

本県出身  
小山ー大石バッテリー貢献

ソフトボールの第16回世界男子選手権は22、23日、チェコ・プラハで準決勝、決勝などが行われ、県勢3人が代表入りしている日本が準優勝し、過去最高に並ぶ19年ぶりの銀メダルを獲得した。大会は16カ国の代表チームが参加。日本は予選リーグA組を7戦全勝の1位で通過すると、準々決勝でベネズエラに6ー0で快勝した。準決勝はニュージーランドに2ー1で競り勝ったが、決勝でアルゼンチンに2ー3で惜敗した。

準決勝は小山玲央（佐世保西高ー日体大）が1失点で完投。1ー1の五回にバッテリーを組む4番大石司（大村工高ーホングアエンジニアリング）の適時打で勝ち越した。

決勝は三回に押し出し四球で先制。さらに捕逸の間に8番・中堅の黒岩誠亥（大村工高ートヨタ自動車）が生還して2ー0と先行したが、五、六回に1点ずつ返されて追いつかれた。七回で勝敗がつかずに無死一塁制のタイブレークに突入。1死満塁の好機を迎えた延長九回は後続が併殺に倒れ、十回に勝ち越しを許した。